

# 長崎県ごみ新聞

長崎小学校  
5年A組  
発行者  
五島花子

五島さんは、ごみしよ理場で見学したことを、学級の人みんなに伝えるために、新聞にまとめています。次の問いに答えましょう。

## E

長崎県のごみは、平成六年から平成十年まではふえ続けていましたが、その後は少しずつ減っています。

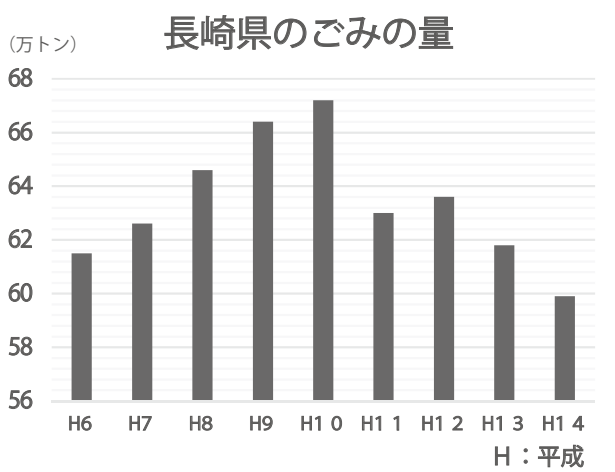
長崎県のごみは、へっではいるものの、現在、一年間に四十七万トンもごみが出ている。

このごみをしよ分するのに、一年間で二百五十億円もお金がかかっています。

ごみしよ理場では、集めたごみを、もえるごみともえないごみに分けてしよ理します。

もえるごみは約800度から900度の熱でもやします。ここでは二十四時間もやし続けます。

ごみをもやした後のはいは、しよ分場まで運び、うめ立てられます。



このように、たくさんの手間をかけて、ごみはやっとしよ理されています。ごみをしよ理するのは、とても大変なのです。

実際に、どのような大変さがあるのか、ごみしよ理場で働く人にインタビューしました。

### わたしのてい案

D

### ごみしよ理場で働いている人にインタビュー

○ごみを分けている人

「私は、みなさんの家から出されたごみを手作業で種類別に分けています。われたガラスやスプレーかんなどのきけんなものが入っていないか、気を付けながら、ごみをふくろの中から出します。時々けがをする人がいて、とてもきけんです。」

○ごみをもやしている人

「私は、集められたごみをもやしています。ごみは、一定の温度で二十四時間もやし続けなければなりません。そのために、職員が交代してもやす温度を管理しています。」

○もやしたごみを運ぶ人

「私は、ごみもえた後のはいをしよ分場に運んでいます。今のごみしよ分場は、もえた後のはいで、やがていっぱいになります。そうになると、次のしよ分場となる土地をさがさなければなりません。しよ分場になりそうな土地は、そうかんたんには、見つかりません。」

C

一 五島さんは、――線部Aの一文が長いので、二文に分けて書いたほうがよいと考えました。文の意味を変えないように二文に分けたとき、の中に入る言葉を次の1から4までの中から一つ選んで番号を書きましよう。

A 長崎県のごみは、平成六年から平成十年まではふえ続けていました。、その後は少しずつへっています。

- 1 だから
- 2 しかし
- 3 つまり
- 4 もしも

二 五島さんは、――線部B「出ている。」を他の文とくらべて、書き直した方がよいことに気付きました。どのように書き直せばよいですか。五字で書きましよう。ただし、句点(。)は字数にふくみません。

三 五島さんは、Cの部分にグラフを入れようと考えました。ここにのせるグラフとしてふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで番号を書きましよう。

- 1 しよ分場の残りの量の変化
- 2 もえるごみの中身の変化
- 3 しよ分場の温度の変化
- 4 もえないごみの量の変化

四 五島さんは、Dの部分に「わたしのてい案」として、自分たちにできることを書くことにしました。どのように書いたらよいですか。次の〈条 件〉に合わせて書きましよう。

〈条 件〉・「ごみ出しのルールを守りましよう。」という書き出しに続けて、そのわけを、「ごみしよ理場で働いている人のインタビュー」の言葉を使って書く。

五 五島さんは、Eに入れる大見出しを考えています。どのように書いたらよいですか。あとの1から4までの中から、伝えたいことにもっとも合うもの一つを選んで、その番号を書きましよう。

- 1 ごみしよ理のしくみ
- 2 くふうしよリサイクル
- 3 ごみはへっている
- 4 大変なごみのしよ理